

こんな活動です

# 『学校・家庭・地域の協働による温かい学びの創造』 洛央いきいきコミュニティ

京都府京都市

活動名

洛央小学校学校運営協議会  
(洛央いきいきコミュニティ)

関係する学校名

洛央小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援		放課後児童クラブとの連携			
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数	
	平成 17 年 10 月 13 日					10 人	567 人	19 学級	

体制図



**活動の概要・経緯**  
平成 17 年 10 月 13 日に、地域に開かれ、地域に根ざした学校を核とする真の「地域ぐるみの学校づくり」を進めるべく、学校運営協議会を設置した。このことにより、地域や保護者が教育活動に参画しやすくなり、地域の教育力を洛央教育に取り入れ、学びをインパクトの強いものにすることができ、教育活動の活性化に繋がると考えた。活動概要としては①『学びコミュニティ』は英語・読書・理科・音楽・伝統文化教育等の学びの活動を支援している。②『安全コミュニティ』は通学路や学校内での安全を見守る活動が中心である。③『チャレンジコミュニティ』は体験活動を通して子供たちのコミュニケーション能力の向上と社会生活のマナーの高揚を図るとともに、7 学区民の交流をより深めることに繋がっている。

## ● 活動の特徴・工夫

### 【特徴的な活動内容】

<おはなしバスケット>主に 1、2 年生を対象に読み聞かせや紙芝居、ブックコマースナルなど、本とのふれあいを通して読書の楽しさを伝え、子供たちに読書に親しもうとする態度を育てている。

<おもしろサイエンス>『おもしろサイエンスフェスティバル』を支援ボランティアが担当教員と一緒に企画・実践し、大人も子供も一緒になって科学を楽しんでいる。子供たちの大好きな科学実験やものづくりを楽しみ、自然探究への関心や意欲の促進を図っている。

<うたおんぶ>金曜日の朝に、ボランティアが各学年の教室へ行き、音楽やダンスに親しむ態度を育てている。2、4 年度より幼小連携のプログラムの一つとして幼稚園児と 2 年生との交流会の中でも歌やダンスの紹介をしている。

<学校安全ボランティア>来校者をチェックしながら安全に気を付けている。子供たちとボランティアとが顔見知りになり安心して学校生活が送れるよう支援している。

### 【実施に当たっての工夫】

『洛央いきいきコミュニティ』の中心に理事会を設け、コミュニティ総体にあたるボランティア活動組織と連携・協働している。『洛央いきいきコミュニティ』は現役 PTA 会員や小学校段階の子育てを終えた比較的若年層の委員で構成し、地域の自治連合会長などを主なメンバーとする「学校評議員」は、学校と『洛央いきいきコミュニティ』の顧問的存在として位置づけている。

## ● 事業を実施しての効果・成果

学校運営協議会の設置から 10 年となり、子供たちや保護者・地域住民相互の交流が深まった。また、保護者・地域住民は洛央教育の推進を自分たちのものとして捉えることができ、学校の教育活動への関心がより高まり、愛着が持てるものになった。また、学校の方針や考えが保護者・地域住民に以前にも増して、伝わりやすくなったと感じられる。更に学校に対する信頼とあたたかい絆ができてきたことを教職員も感じている。これは教職員の意欲の向上にも繋がっている。今後学校運営協議会が更に発展していくために、新しい人材の補充と育成を図ることや新たなプランや改善点を出し合えるように心がけていくことが大切であると考えている。



おもしろサイエンス「おもしろサイエンスフェスティバル」



わくわく伝統文化「友禅染め体験」